

編集後記

10代から90代が学ぶ放送大学（通信・通学）に学びの場を求めて入学者が増加しているという。高齢者にとっても学びやすいこともあり、団塊の世代が退職し60歳代の学生が昨年は前年比25.7%の増、過去3年間でも2桁の増加率で入学数は急増しているという。台湾にも日本の放送大学に相当する空中大学がある。同空中大学でも過去3年入学者が増加しているという。どこの国でも初等教育から大学・大学院といった高等教育レベルまで進学できる正規の教育システムを持っている。正規のルートから外れた人のために、経済的な理由等で正規のルートで学べなかった人だけでなく、再度学問をしたい高齢者にも「第2の機会」を利用し学生になれる。世界一の長寿国となった日本は定年退職後も平均寿命まで20年余年もある。これからは日台間で高齢者対象交換留学生を相互に派遣する制度もあってもよいのではないかと思う。また青年時に台湾留学の機会がなかった人にも、留学の「第2の機会」として挑戦してもよいのではないか。日本にとって21世紀はアジアの時代で中華圏ビジネスをどう成功に導くかにかかっている。そのためにも日台の関係は若手交流をはじめ全世代間の交流で重層的かつ多層的な交流が必須だろう。

（貿易経済部次長 山田 尚史）